

## 資産形成のための制度へ 幅広い情報提供で投資家層拡大目指す

三菱 UFJ 投信株式会社 執行役員 大平 恒敏氏

NISA口座の開設までの時間が問題となっている。NISA口座の申し込みが殺到した結果、税務署の対応が間に合っておらず、金融機関によっては開設まで2ヵ月近く待たされるケースもあるという。他方、開設されたNISA口座は運用に用いられているのかというと、残念ながら稼働率は高くないようだ。「NISA本来のターゲットである資産形成層への投資普及は、まだまだこれからです」と語るのは、三菱UFJ投信の大平恒敏氏だ。資産形成のための投資が人々に浸透するには何が必要なのか、NISAの今後の展望について大平氏に聞いた。

### NISAの正しい理解が投資活発化の鍵

— 現在、一般投資家はNISAをどのように利用しているのでしょうか。

NISAの趣旨は、投資家層の拡大と資産形成を目的とした投資の普及です。一方で、今のところNISAで中心となっている利用者は、既に投資を行っていた投資家です。非課税であるから利用しているという投資家が多く、資産形成の基本である積立投資はあまり見られないのが現状です。

資産形成のための投資が拡大しにくい原因は2つあります。ひとつは、NISAという制度の理解が一般投資家にとって不十分であること。もうひとつが、販売会社の新規層・若年層へのNISA普及の取り組みが本格稼働していないことです。なお後者に関しては、口座開設が一段落してから、様々な形でサービスが提供されるようになるかと思えます。いずれにせよ、長期的な普及・啓蒙活動が必要です。

NISAにおける、一般投資家の理解度を高めるために、弊社では「NISA読本」という資料を提供しています。NISAという制度がどのようなものなのか説明すると共に、投資を行う時に、何が重要だという投資との向き合い方を

解説しております。

NISAでいきなり個別商品を紹介するのではなく、それぞれの投資家のニーズにあった投資での重要な考え方を提唱しています。

例えば、「非課税メリットを最大限享受するために、リターンを高めたい」という考え方があります。リターンを高めるには相応の高いリスクを覚悟する必要がありますが、積立て投資を活用することで、うまくリスクを軽減することを提案しています。知識不足が原因で投資に失敗してしまい、結果的に投資不要論に走るのは非常にもったいないことです。一方で、「値下がりなるべく避けたい」方には、リスクについての解説と、リスクを抑えた投資（バランス、債券）を紹介しています。我々は情報提供を積極的に行い、投資の正しい理解を広めたいと考えています。

— 投資家層の拡大には、投資知識以外にはどのようなものが必要となるのでしょうか。

ひとつは投資に関連した新制度の導入です。未経験者は、何らかのきっかけがないと投資を始めるのは難しいと感じるでしょう。今回のNISA導入は、投資を行ったことのない人々にとって、投資を開始する良い契機となっているのは間違いありません。

次に大切なのは、市場の相場が上向きであることです。市場が上がる見通しの立たない時期に、投資を始める方はまずいらっしゃいません。やはり市場が好調であることが、投資の誘因となるのではないのでしょうか。2013年の市場は、アベノミクスによって好調だったと言えますので、投資を始めやすい環境が整っていたと考えられます。

そして、投資家層拡大のために今後の追い風となり得るのは、投資における成功体験の広がり、インフレーションの実感です。



NISA の資料集:右から①制度解説、②節税効果重視、③コスト重視、④低リスク指向、⑤分散投資、に焦点を当てている。

新制度の導入にしろ、市場の好調にしろ、投資との関わりが薄い人々にとっては、それだけでは投資を始めるための後押しにはなりません。身近な人々の成功体験は、投資への意欲をかきたてます。インフレの持続によって、保有資産の目減りを懸念する人々は投資の必要性を感じます。実感を伴ったイベントが、投資のさらなる活発化のために重要だと考えており、その点でも環境は整いつつあると思います。

### 広がりみせるインデックス・ファンド

— NISAで注目すべきファンドは、どのようなものがあるのでしょうか。

各個人のニーズに合わせたファンドを買うのが第一ではありますが、低リスクと低コスト、この2つのキーワードが注目されていると言えるでしょう。低リスクのファンドとしてはバランス型や債券型ファンド、低コストのファンドとしてはインデックス・ファンドが挙げられます。

販売会社にとっても、NISAで投資家のすそ野を拡大することが重要な事項になってきていますので、新たな投資家向けの商品として、バランス型や債券型のファンドが重要になってくると考えています。弊社もバランス型ファンドで「三菱UFJ バランス・イノベーション」「コアバランス」、債券型のファンドで「三菱UFJ /ピムコトータル・リターン・ファンド」「バリュー・ボンド・ファンド」を提供しています。今後の金利上昇など様々な相場動向も想定し、長期的に安定したパフォーマンスを提供できる商品を数多くの販売会社様にご活用いただいています。

インデックス・ファンドはNISAで広がりを見せており、データからもインデックス・ファンドに対する一般投資家の高いニーズが伺えます。弊社が提供しているインデックス・ファンド・シリーズ「eMAXIS」(イーマクシス)は、2013年に純資産残高を大きく伸ばしています。2012年末は400億円程度だった残高が、2014年1月末の時点では760億円まで増加しました。販売会社数も増加しています。「eMAXIS」を取り扱っている金融機関は、2012年末では12社でしたが、2014年1月末には27社と倍以上になっております。

しかし投資信託の市場規模を考えると、市場におけるインデックス・ファンドの占める割合はまだまだ小さいと言わざるを得ません。他の運用会社もインデックス・ファンドを提供しておりますが、パイの取り合いではなく、相乗効果を期待してインデックス・ファンドの認知度向上を目指していきたいと思えます。

— インデックス・ファンドに関連した取り組みがありましたら、お話しください。

「eMAXIS」が掲げる目標として、「皆で育てる」というものがあります。その試みのひとつとして、一般投資家の皆様や金融関係のプロフェッショナルと直接、意見交換をする機会を定期的に持っておりま。有識者の方々とのお会合を2009年11月から3回、ファンド・プロガー（投信についてのブログを主催している一般投資家）とのミーティングを年2回のペースで過去6回開催しております。どんなファンドを追加して欲しいかアンケートも実施しており、アンケート結果は全世界株式インデックス・ファンドと新興国債券インデックス・ファンドの設定として実現しました。



投資教育の一環としては、一般投資家が参加可能なコンテストを実施しています。分散投資によるリスク・コントロールの重要性を実感していただくために、「ポートフォリオの達人」というポートフォリオ・コンテストを昨年3月に行いました。内容は、パフォーマンスの優劣を競うのではなく、リスク1単位あたりのリターンを競うというもので、前は1419人の参加者がいらっしゃいました。

リスクとリターンについての知識は、世の中全体に広まってきたように思いますが、リスクのコントロール方法はイメージできない方も多いようです。分散投資のリスク低減効果をお伝えするのに、「ポートフォリオの達人」は有用だったと思います。

— 投資家は、NISAを通じてどのような投資を心がけるべきでしょうか。アドバイスをお願いします。

投資家の声として、「NISAに合致したファンドを買いたい」というものがありますが、NISAに合致する唯一のファンドというものはありません。各投資家のニーズはそれぞれ異なりますので、制度を理解した上で、自分自身のニーズに即したファンドを購入することこそ、NISAの正しい使い方だと思えます。だからこそ、複数のNISA読本を用意したわけです。

NISAは、個人投資家にとってのチャンスだと思っています。四半期単位で結果を求められる機関投資家と異なり、個人投資家は長期の運用成果のみを考えることができます。また、自分で運用するファンドを選択することができます。短期の利益にとらわれず、時間をかけた積立投資でぜひNISAを活用していただください。

—